

論文内容要旨

論文題名

The time-dependent changes in occlusal status in the implant-supported prosthesis at mandibular first molar from prosthesis placement to 3 months after.

(装着直後から 3 カ月後の下顎第一大臼歯部インプラント補綴装置の咬合状態の変化)

掲載雑誌名

International Journal of Implant Dentistry(投稿中)

高齢者歯科学 寺澤 真祐美

内容要旨

目的： インプラント補綴装置に働く力学的因子を解明するために、かみしめ強さの規定下にて、咬合力診断用感圧フィルム(以下プレスケール)とシリコーン検査材(以下ブルーシリコン)を使用して、下顎第一大臼歯部インプラント補綴装置の咬合接触状態が、補綴装置装着後から 3 カ月間で、経時的にどの様に変化するかを明らかにすることを目的とした。

方法： 被験者はインプラント部以外に喪失歯のない、下顎第一大臼歯部にインプラント補綴を行った 8 名とした。補綴装置装着直後、及び 3 カ月後において以下の方法により資料採得を行い、結果を比較・検討した。最初に、咬筋筋活動量をモニターし、最大かみしめ強さ 100 % MVC (maximum voluntary contraction) を規定した。次にプレスケールと咬合力測定装置を用い、咬合荷重量と咬合接触面積を 40, 60, 80, 100 %MVC のかみしめ強さで各 3 回計測した。最後にブルーシリコンと咬合接触測定装置を用い、咬合接触面積を 20, 40, 60 %MVC のかみしめ強さで、咬合接触面積を各 1 回計測した。得られたデータを解析し、補綴装置装着直後と 3 カ月後で比較検討した。

結果： 両側臼歯部の咬合荷重量・咬合接触面積は、補綴装置装着直後、3 カ月後を比較すると全てのかみしめ強さで増加した。しかし、両側臼歯部の咬合接触面積を咬合荷重量で除した値は、全てのかみしめ強さにおいて、3 カ月後との間に有意な変化は認められなかった。インプラント補綴装置の咬合荷重量も有意な変化は認められなかった。インプラント補綴装置の

咬合接触面積と、咬合接触面積を咬合荷重量で除した値（以下、接触面積／荷重量）は、かみしめ強さ 100%MV Cにおいて、3 カ月後で有意に増加した。

結論：インプラント補綴装置を装着し 3 カ月で、かみしめ強さが増加することにより、両側臼歯部全体の咬合接触面積・咬合荷重量が増加した。

インプラント補綴装置は装着から 3 カ月間で強いかみしめ強さにおいて、咬合接触面積が増加する可能性が示唆された。